

放送問題用のメモらんとしてつかいなさい

1 放送による問題

はじめは放送による問題です。放送の内容は、小学生のあかりさんが、学校のできごとについて家族と会話している様子です。放送を聞いて、次の各問に答えなさい。(放送は一度だけです。放送中にメモをとってもかまいません。)

問1 昔、家庭でもよくニワトリを飼っていた理由について、お父さんは何と
言っていましたか。次の [ア] ・ [イ] に合う言葉を書きな
さい。(ただし、イは漢字二字とします。)

[ア] をとるだけでなく、ニワトリそのものを [イ] と
して利用していたから。

問2 昔は学校でもニワトリを飼っていた理由を、お父さんの担任の先生はど
う説明していましたか。次の () にあてはまる適切な言葉を書きな
さい。

世話をした生き物に思いをかけることで () を
子どもたちにも知ってもらうため。

問3 十年前の調査では、動物を飼育する学校の割合は何%だったと言ってい
ましたか。数字を書きなさい。

問4 放送された内容と合っているものを次のアからエの中から一つ選び、そ
の記号を書きなさい。

- ア お父さんは、おばあちゃんにお祭りでヒヨコを買ってもらった。
- イ お母さんは学校で動物を飼うニュースをテレビを見た。
- ウ お父さんの家のニワトリが卵を産んだ日は玉子焼きを食べた。
- エ あかりさんのクラスではメダカを飼っている。

問5 最近、小学校ではニワトリではなく魚を飼うようになってきていると
言っていました。その背景として、放送の中では述べていないものを次の
アからオの中から二つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 動物アレルギーの先生が増えた。
- イ 動物を飼育したことのない先生が増えた。
- ウ 休みの日に世話をするのが大変だ。
- エ 鳥インフルエンザが流行した。
- オ 周りの家から苦情が出た。

問6 あかりさんは毎日「三行日記」をつけています。この日は家族と会話し
た内容で一番印象に残ったことについて書きました。あかりさんになつた
つもりで、次の書き出しと書き終わりに合うように、日記を完成させな
さい。

今日は夕食の後に、お父さんやお母さんと話をしました。昔の家では
びっくりしました。

2

次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

アキさんは、先生から「右や左という言葉は普段よく使うけれど、意味を説明しようとすると意外にむずかしい」と聞き、興味を持ちました。そのことを図書室の司書の先生に話すと、司書の先生が、辞書『三省堂国語辞典』、本文中では『三國』の編集者が辞書作りについて書いた本を貸してくれました。次の文章はその本の一部です。アキさんは、この文章を読んでわかったことをみんなに紹介しようと思いました。

①「右」「左」は、基本語中の基本語ですが、本当に説明しにくいのです。「上」ならば「基準よりも高いところ」、「前」ならば「正面の方角」などと言えませんが、「左」と「右」とを互いに区別する説明というものは、なかなか思いつきません。

よく、子どもに教えるときに「右というのは、○○ちゃんが箸を持つほうだよ。左は、お茶碗を持つほうだよ」などと言います。これは、「○○ちゃん」が右利きだから言えることであって、左利きの子どもには逆の説明が必要です。国語辞典の利用者は、右利きの人も左利きの人もいるので、この説明は（便利であるにもかかわらず）使えません。

では、どうすればいいか。多くの国語辞典は、方角を使って説明します。

みぎ【右】①空間を二分したときの一方の側。その人が北に向いていれば、東にあたる側。↑左。「一を向く」(『大辞林』第3版)

みぎ【右】①南を向いた時、西にあたる方。↑左。(『広辞苑』第6版)

といったあんばいです。②「左」の説明もこれに準じるので省略。これですっきりしたようですが、では「南」はどうかと引いてみると、(日)の出る方に向かって右の方向)などと、再び「右」が使われています。「左右」の意味を「東西南北」で説明し、「東西南北」を「左右」で説明するのは、③循環論法です。

④『新明解国語辞典』は、この点、工夫しています。

みぎ【右】①アナログ時計の文字盤に向かった時に、ア時

世間に知れ渡っていました。その語釈をあえて使うということは、『三國』は『岩波』を支持する」という表明だったのでしよう。

それまで、『三國』は、他の多くの辞書と同じく、「右」の意味を方角によって説明していました。でも、「方角での説明はよくない。今後は『奇数ページ』『偶数ページ』で説明するようにしようではないか」。そういう意思表示だったのでろうと推測します。

そうだとすると、『三國』の「右」(同様に「左」も)が独自性に欠けることは否定できません。これは手入れの対象になります。

「偶数ページ」のように、実際に利用者が目の前にしているものを使って説明する語釈は、斬新であると同時に、決定的な弱点を持っています。それは、その現物が目の前にない場合には、説明が成り立たなくなることです。早い話が、『岩波』や『三國』の「右」の語釈を声に出して読み上げた場合、聞いている人は意味が分かりません。「偶数ページ」を実際に見ていないからです。

『岩波』は、第6版(2000年)で横組み版を出しました。横組みというのは、左綴りで文章を横書きにした本です。となると、ページ番号の左右が、従来の縦組み版とは逆になります。この場合も、語釈がそのままでは通用しなくなりそうです。私は、この横組み版が出た時、よけいな心配をして、「右」を引いてみました。すると(偶数ページ)はちゃんと(奇数ページ)に訂正されていました。

ところが、⑦メディアの変化とともに、少しの修正ではすまない事態になりました。辞書は電子化の時代を迎え、『岩波』『三國』は電子版をリリースしました。これで困るのは、電子版には奇数ページも偶数ページもないことです。『岩波』も『三國』も、結局、電子版では「右」の語釈を訂正していません。そのまま「偶数ページ」と書いてあります。利用者には、そこに辞書の左右のページが「あるつもりになって」理解してもらおうしかありません。

このままではよくない。次の『三國』第7版では、紙に印刷した辞書でも、電子版の辞書でも通用する、しかも分かりやすい「右」の語釈はできないでしようか。

からイ 時までの表示のある側。「明」という漢字の「月」が書かれている側と一致 (『新明解国語辞典』第7版)

この語釈は、なかなかイメージを喚起する力があります。「時計」「漢字の「明」という日常的な例を使っているところがいい。ただ、「アナログ時計」という言い方が、かえってむずかしいという難点があります。たしかに、デジタル時計全盛の現代、単に「時計」と言うわけにはいかないのは分かりますが、もう一工夫ほしい。

ここで、『岩波国語辞典』の登場となります。『岩波』は、1963年の初版で、「右」について、簡潔な、しかも⑤核心をついた語釈を施しました。

みぎ【右】①相対的な位置の一つ。東を向いた時、南の方、また、この辞書を開いて読む時、偶数ページのある側をいう。↑左。 (『岩波国語辞典』初版)

方角による説明は他辞書と同じですが、(この辞書を開いて読む時、偶数ページのある側)という定義は非常に斬新でした。「右」の説明が、「そこにいるあなた」「○○ちゃん」を基準にするしかないことをよく踏まえています。辞書を使う人は、この説明を見てからページ番号を確認すれば、「右」がどちらかが分かります。

この語釈は、現在の『岩波』も基本的に踏襲しています。『岩波』の語釈の鋭さが語られるとき、この「右」の例は必ず持ち出されます。

わが「三國」はどうか。「右」は、1992年の第4版からこうなっています。

みぎ【右】①この本を開いたとき、偶数(グウスウ)ページのあるほう(がわ)。「一がわ通行・向かって一」 (『三國』第4版)

⑥「……これって、バクリ? 思わずそう言いたくなります。でも、編纂者の意図は、そうではなかったと思います。すでに『岩波』の「右」の語釈は

ときに必要な要素は二つ明らかになっています。

1 「右」が、位置関係を表すことばであることの説明。

2 「右」を説明するのにふさわしい、誰にとっても身近なものの例。

これを取り入れた語釈を試みました。手元の記録によれば、2008年の9月に「右」の語釈に手入れを始めて、2013年の2月にはほぼ固まりました。⑧足かけ□年を要して、次のような語釈になりました。

みぎ【右】①横に(広がる／ならぶ)ものうち、一方のがわをさすことば。「一」の字では、書きおわりのほう。「リ」の字では、線の長いほう。「向かって一」がわ通行 (『三國』第7版原稿)

つまり、「右」というのは、横に連続して広がるものの一方、または、何個か並んでいるものの一方を指すのですね。まず、この点を押さえておきます。そして、「右」を説明する身近なものの例として、「一」「リ」という文字を選びました。それぞれ、小学校に上がる前の子どもでも知っている文字です。日本語を習いたての外国人学習者にも分かるでしょう。

文字を使つての説明は、『新明解』の「明」の例を参考にした部分があります。「明」でもいいのですが、もっと単純な、図形に近い文字はないだろうかと考え、「リ」にしました。また、左右がつながっている例もほしいと考え、「一」の例も出しました。

この「右」の語釈は、これまでの辞書の語釈を、ある面では前進させたのではないかと、少々の自負を持っています。『岩波』の(偶数ページ)という、あのインパクトはないかもしれませんが、『岩波』の「右」を超えたい」と願いながら語釈を考えたのは事実です。(飯間浩明『辞書を編む』より)

注1 あんばい…物事のほどあいや様子。
注2 イメージを喚起する…ここでは「意味を想像するのを助ける」の意。
注3 斬新…きわだって新しいさま。目新しいさま。
注4 踏襲する…前の例にならって同じようにすること。
注5 バクリ…そっくりマネをすること。
注6 編纂者…ここでは辞書の内容をつくる人たちのこと。
注7 リリース…ここでは電子版の辞書を開発して販売すること。

②の問題

問1 ①「右」「左」は、基本語中の基本語ですが、本当に説明しにくいのです。とありますが、なぜ「右」というのは、○●ちゃんがお箸を持つほうだよ。左は、お茶碗を持つほうだよ」と説明するのではないのですか。書き終わりが「くから。」になるように文章中の言葉をぬき出して書きなさい。

問2 ②「左」の説明もこれに準じるので省略。とありますが、『広辞苑』の「右」の説明の仕方を参考に、次の□にふさわしい漢字一字を書き入れて「左」という語の説明を完成させなさい。
東を向いた時、□にあたる方。

問3 ③循環論法です。とありますが、このように言った筆者の考えとして、最もふさわしいものを次のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 「左右」を説明するのに、「左右」を使って意味を説明している「東西南北」を使うのは、適切とは言えない。
- イ 「左右」の語を説明するのに、「東西南北」という方向を表すのは、意外な良いアイデアである。
- ウ 「左右」という語はとても説明しにくいので、「東西南北」など方向を表す語で説明するのは論理的である。
- エ 「左右」という語はとても説明しにくいので、「東西南北」を使って説明する以外に方法がないのだ。

問6 ⑥「……これって、パクリ?」とありますが、何と何がどんな点で「よく似ている」のですか。次の□と□にあてはまる内容を文章中の言葉を用いて書きなさい。

『岩波』の「右」の説明と、□とが、□という点で似ている。

問7 ⑦メディアの変化とともに、少しの修正ではすまない事態になりました。とありますが、なぜ「少しの修正」ではすまなくなったのでしょうか。次の書き出しに続けて、□の中に適切な言葉を入れて理由の説明を完成させなさい。ただし「右」「ページ」の語を必ず使うこと。

電子辞書になると□

問8 ⑧足かけ□年を要して、とありますが、かかった年数を数えるときに使う「足かけ」の意味に注意して、□にあてはまる正しい数字を書きなさい。

問9 アキさんは、この本を読んでわかったことをみんなに紹介するために、次のスピーチメモを作りました。㉠から㉣の□にあてはまる内容を、本文中から、それぞれぬき出して書きなさい。(ただし、一マスに一字とします。また、「」や「」などの記号も一字と数えなさい。)

問4 ④『新明解国語辞典』の「右」の説明について、□・□にあてはまる数字をそれぞれ書きなさい。

問5 ⑤核心をついた語釈について次の(1)(2)の問題に答えなさい。
(1)「核心をつく」とはどういう意味ですか。次のアからエの中から最もふさわしいものを一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 最も心をゆりうごかされる説明をすること。
- イ ものごとの中心点をあえて外して説明すること。
- ウ 最も重要な点を外さずにとらえて説明すること。
- エ 誰もが思い浮かばなかった斬新な説明をすること。

(2) 筆者は『岩波国語辞典』の「右」の語釈のどこが核心をついているのでしょうか。最もふさわしいものを次のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 方角による説明は他の辞書と同じだが、辞書を開いた時に偶数ページがある側というのは誰も思い浮かばなかったこと。
- イ 辞書を使う人は、この説明を見てからページ番号を確認すれば、どちらが「右」かわかる方法で説明している点。
- ウ 今、辞書を引いてこの説明を読んでいる人から見ると、どちら側が右・左であるという説明の仕方をしたアイデアが新しいこと。
- エ 右・左が相対的な位置の一つであることと、今「そこにいるあなた」を基準にするしかないことをよく踏まえている点。

「アキさんが作ったスピーチメモ」

◎飯間浩明さんという方が書いた『辞書を編む』という本の中にももしろいことが書いてあったので紹介します。

- 右や左は、上や㉠に比べて説明が難しい。
- これまでは例えば右なら「南を向いたとき、西にあたる方。」など、□を用いて説明することが多かった。
- 筆者は、右の意味を説明するためには、
1 「右」が位置関係を表す言葉であることの説明
2 「右」を説明するのにふさわしい誰にとっても身近なもの例のふたつが必要だと考えた。

○そこで筆者は新しい辞書では、「右」……横に(広がる／ならぶ)ものうち、一方のがわをさすことば。「一」の字では、書きおわりのほう。「リ」の字では、線の長いほう。
という語釈を考えた。

○筆者が考えた語釈の中の□から□までが1にあたる。

○また、㉡から㉣までが2にあたる。

3 次の文章を読んで後の各問に答えなさい。

春男君のところに、おばあちゃんから贈り物が届きました。それには手紙がそえられていました。

手紙Ⅰ おばあちゃんからの手紙

① 入学の吾子人前に押し出だす 桂郎

もうすぐ中学校の入学式ですね。この句を見ていたら、まだ今よりずっと小さかった春男君が、小学校の入学式のとくに、はずかしくてもじもじしてみんなのところに行こうとしないので、春男君のお父さんが、背中をおしてみんなの方に行かせようとしていたことを思い出しました。ついこの間のことのようにですが、もう六年もたったのですね。早いものです。

今の春男君はずいぶん成長して、はずかしがったりなどせず、新しい学校生活やお友達のことを胸をはずませ、入学してもすぐに、たくさんのお友達をつくつて、楽しい学校生活をすごすことでしょう。中学生になった春男君を早く見てみたいですね。

中学入学の記念として、国語辞典と漢和辞典を送ります。これを使って勉強にはげんでくださいね。

春男君は、おばあちゃんの手紙の「① 入学の吾子人前に押し出だす」の俳句の「吾子」が、よく分からなかったので、お母さんに聞くと「自分の子ども」という意味で、小学校の入学式のとくに春男君の様子、この俳句によまれている情景と似ていることを教えてくれました。春男君のおばあちゃんは趣味で俳句をやっているのです、手紙のあいさつとしてその季節や相手の状況にふさわしい俳句を選んでそえてくれたのです。昔から日本では、自作の俳句や著名人の俳句をあいさつ代わりに気軽に手紙のやりとりに使っていたということも、お母さんは教えてくれました。

一週間後、入学式を終えた春男君は、入学式の写真といっしょにおばあちゃんに送るお礼の手紙を書き、お母さんに見てもらいました。お母さんから、おかしところがあるから、送る前に直すようにと言われました。次の文章がそのお礼の手紙です。

手紙Ⅱ 春男君からのお礼の手紙

② 日ざしも、日に日に暖かさをまし、春らしいおだやかな日々が続いています。おばあちゃん、お変わりありませんか。先日は小春びよりの良いお天気の日で中学校の入学式が行われました。

入学の前には、お③ イワイを送ってくださってありがとうございました。小学校のときの先生も辞書をよく使うと言葉の力になると④ 言っていました。だから、おばあちゃんがくださった辞書を使うことに早く慣れ、たくさんの言葉が身に付きます。

ぼくが中学生になった姿を早く見たいとお手紙にあったので、入学式のときにとった写真を送ります。でも写真でなく、本物のぼくの⑤ セイフク姿を見ていただきたいので、今度の連休のときにおばあちゃんの家遊びにいきますね。

⑥ ではお体に気をつけてお過ごしください。

祖母へ

春男より

3の問題

問1 手紙Ⅰについて、「① 入学の吾子人前に押し出だす」とありますが、俳句には季節の言葉を入れて句を作るといふきまりがあります。この俳句と同じ季節の俳句を次のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(各句の——線部分が季節の言葉です。)

- ア 流れゆく大根の葉のはやさかな
- イ ひっぱれる糸まつすぐやかぶと虫
- ウ ゆさゆさと大枝ゆるるさくらかな
- エ 柿食えば鐘がなるなり法隆寺

問2 手紙Ⅱについて次の(1)(2)の問題に答えなさい。

(1) ——線②のあいさつの部分には、この手紙を書いた季節にふさわしくない言葉が使われています。その言葉をぬき出して書きなさい。

(2) (1)の言葉は、正しくはいつごろに用いられるものですか。次のアからエの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 梅の花の咲き始めるころ
- イ 新緑の美しいころ
- ウ 名月のお月見のころ
- エ 紅葉した葉が散るころ

問3 手紙Ⅱの中の「お③ イワイ」、「⑤ セイフク」を漢字で書きなさい。(送りがなが必要な場合は書くこと。)

問4 ④ 言っていました。 を敬語を使った言い方に書きかえなさい。

問5 手紙Ⅱの中の「おばあちゃんがくださった辞書を使うことに早く慣れ、たくさんの言葉が身に付きます。」の部分は、意味のわかりにくい文になっています。春男君の言いたいことを変えずに文末部分を次の□にあてはまるように、適切な表現に書きかえなさい。

おばあちゃんがくださった辞書を使うことに早く慣れ、たくさんの言葉 □。

問6 あて名の「⑥ 祖母へ」は、適切ではありません。適切な表現に書きかえなさい。

